

令和7年度採用 中学校 家庭

教科（科目）	受験番号
家庭	

1

（１） 次の文は、幼児の日常着の選び方についての説明である。**適切でないものを**、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は１１。

- ① 首元が広くあいているもの。
- ② 腹部を締め付けないもの。
- ③ 足首の開口部をひもで開閉できるもの。
- ④ 吸湿性があるもの。
- ⑤ 洗濯に耐える丈夫なもの。

（２） 次の文は、予防接種についての説明である。最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は１２。

- ① 予防接種には、定期接種と任意接種があり、保護者は、対象者に定期接種を受けさせる努力義務がある。
- ② 四種混合とは、百日せき、ジフテリア、破傷風、麻疹である。
- ③ すべての予防接種は、１歳以上にならないと接種することはできない。
- ④ HPV ワクチン（子宮頸がんなど HPV 感染症）は、小学校就学前に接種することが望ましい。
- ⑤ 母親がＢ型肝炎キャリアの場合は、Ｂ型肝炎予防接種の必要はない。

- (3) 次の二つのグラフは、児童虐待に関するものである。(ア)、(イ)、(ウ)に該当する語句の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑧の中から一つ選べ。解答番号は13。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

児童虐待の相談種別の件数 児童虐待相談における主な虐待者別構成割合の年次推移

(厚生労働省「令和3年度 福祉行政報告例の概況」より)

	(ア)	(イ)	(ウ)
①	身体的虐待	実母	実父
②	心理的虐待	実母	実父
③	ネグレクト	実母	実父
④	性的虐待	実母	実父
⑤	身体的虐待	実父	実母
⑥	心理的虐待	実父	実母
⑦	ネグレクト	実父	実母
⑧	性的虐待	実父	実母

- (4) 次の文は、「令和5年版高齢社会白書（内閣府）第2節 高齢期の暮らしの動向 3 学習・社会参加 (2) 社会参加 65歳以上の者の社会活動への参加状況」について書かれたものである。最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は14。

- ① 1年間に活動または参加した高齢者の割合は50%以上である。
- ② 子育て支援（保育への手伝い等）に参加した高齢者の割合は10%以上である。
- ③ 地域行事（祭りなどの地域の催しものの世話等）に参加した高齢者の割合は、男性よりも女性が高い。
- ④ 健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）に参加した高齢者の割合は、男女とも65～69歳の層が最も高い。
- ⑤ 趣味（俳句、詩吟、陶芸等）に参加した高齢者の割合は、女性よりも男性が高い。

- (1) 次の表は、じゃがいものみそ汁の材料と分量（4人分）である。（ア）、（イ）に当てはまる数字として正しい組合せを、下記の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は15。

< 4人分 >

水・・・・・・・・600mL + 蒸発分 200mL

みそ・・・・・・・・40 g（塩分含有量 12%）

煮干し・・・・・・・・20 g

じゃがいも （ア） g

- 4人分のみそ汁の材料にするじゃがいもの可食部の重量は 200 g である。ただし、じゃがいもの廃棄率は 10% であるため、準備する量は約（ア）g になる。
- このみそ汁の塩分濃度は（イ）% である。

	(ア)	(イ)
①	180	0.8
②	222	0.8
③	380	0.8
④	180	0.6
⑤	222	0.6
⑥	380	0.6

- (2) 次の文は、炭水化物について書かれたものである。最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は16。

- ① でんぷんは、穀類、いも類、肉類に多く含まれる。
- ② でんぷんは、生では味も消化も悪いが、水とともに加熱すると味も消化も良くなる。この変化をβ化という。
- ③ しょ糖を構成している糖は、ぶどう糖とガラクトースである。
- ④ 不溶性の食物繊維であるセルロースは甲殻類に含まれることが多い。
- ⑤ 食物繊維は消化されないが、腸の調子を整え、健康の保持のために必要である。

(3) 「第4次食育推進基本計画」についての記述として**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は17。

- ① 家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは、食育の原点である。
- ② 成人男性には肥満者が多いこと、若い女性にはやせの者が多いこと、高齢者では男女とも低栄養傾向の者の割合が高いこと等、食生活に起因する課題は多い。
- ③ 日本の食品ロスの約半分は家庭からの排出である。
- ④ 家庭においては、普段の食料品を少し多めに買い置きし、消費した分を補充するサプライチェーンによる日常の食料品の備蓄を行い、災害時に備える。
- ⑤ 学校給食を「生きた教材」として活用することで、食育を効果的に推進する。

(4) 次の文は、日本の食文化について説明したものである。**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は18。

- ① 日本では、米を中心に、野菜、魚介類、大豆とその加工品などを多く用いた一汁三菜を基本とした食事様式が室町時代頃に始まり、江戸時代にほぼ完成した。
- ② 日本の伝統的な食文化は、和食として2013年にユネスコ無形文化遺産に登録された。
- ③ 各地域の産物を活用し、風土にあった食べ物を受け継いでいる郷土料理や、年中行事で食される行事食は和食の特徴の一つである。
- ④ だしの「うま味」を活用し、動物性油脂を多用しない和食の特徴は、肥満防止に寄与する。
- ⑤ 人生の節目や祭りの際などにつくる「ごちそう」をケの食事という。

(1) 次の文は、ミシンの使い方について説明したものである。**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は19。

- ① 縫い始めは、糸を左手で軽く押さえ、はずみ車を手前に回し、針を縫い始めの位置に刺す。レバーを下げて押さえを下ろし、ゆっくりと縫い始める。
- ② 縫い終わりは、針を上げ、押さえも上げる。布をむこう側に引く、糸を10cmほど残して切る。
- ③ 角の縫い方は、布に針を刺したままミシンを止め、押さえを上げる。針を軸にして布を回し、押さえを下ろして再び縫う。
- ④ 縫い目が飛ぶ主な原因は、針が曲がっていたり、針の付け方が間違っていたりすることである。
- ⑤ 縫い目の大きさは、上糸調整装置で調整する。

- (2) 次の表は、被服に使われるおもな繊維の種類と特徴について書かれたものである。
 (ア)～(ウ)に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑧の中から一つ選べ。解答番号は20。

種類			特徴
天然繊維	植物繊維	(ア)	・はり，こしがある ・さわると冷感がある
化学繊維	半合成繊維	(イ)	・吸湿性が高い ・絹に似た光沢がある
	合成繊維	(ウ)	・比較的熱に強い ・化学繊維の中で最も消費量が多い

	(ア)	(イ)	(ウ)
①	絹	アセテート	ポリエステル
②	絹	アクリル	ポリウレタン
③	絹	アセテート	ポリウレタン
④	絹	アクリル	ポリエステル
⑤	麻	アセテート	ポリエステル
⑥	麻	アクリル	ポリウレタン
⑦	麻	アセテート	ポリウレタン
⑧	麻	アクリル	ポリエステル

- (3) 「SUSTAINABLE FASHION (環境省)」に取り上げられている、持続可能な衣生活についての説明として**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は21。

- ① 手放された服の約19%しかフリマアプリや回収などを通じ古着としてリユースされていない。
- ② 1990年と比較すると、2021年の衣服の購入量、供給量はともに横ばいである。
- ③ 日本で売られている衣服の約98%が海外からの輸入である。
- ④ オーガニックコットンや再生原料などサステナブルな素材を選択することで環境負荷を削減できる。
- ⑤ 国内に供給される衣服の製造に必要な水の量のうち約9割は綿の栽培によるものである。

(1) 次の文は、省エネルギー住宅についての説明である。**適切でないもの**を、下記の

①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は22。

- ① 省エネルギー住宅を実現するためには、断熱、日射遮蔽、気密の3つが対策の柱となる。
- ② 環境とエネルギーに配慮した住居として、エネルギー自給型住宅（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の推進が始まっている。
- ③ 日本の家庭のエネルギー消費において、約50%を占めているのが暖冷房である。
- ④ 省エネルギー住宅は、室温の変化が少ないため、ヒートショックが起きにくい。
- ⑤ 環境共生住宅の特徴には、省エネルギー、省資源、水資源の有効活用、周辺の生態系との調和、健康で快適な居住環境の形成が挙げられる。

(2) 次の文は、家庭内の事故についての説明である。**適切でないもの**を、下記の①～

⑤の中から一つ選べ。解答番号は23。

- ① 家庭内事故で亡くなる人は、年代によっては交通事故で亡くなる人よりも多い。
- ② [消費者庁令和4年度「子どもの不慮の事故の発生傾向」～厚生労働省「人口動態調査」より～]によると、令和3年の子ども（0～14歳）の「不慮の事故」による死因の1位は、不慮の窒息である。
- ③ 令和4年度版の消防白書（資料編）（総務省消防庁）によると、建物火災の主な出火原因の1位はこんろである。
- ④ 電源プラグの周囲にほこりや湿気が付着することにより、差込口から出火することをトラッキング現象という。
- ⑤ 消費者庁（令和4年12月作成）「高齢者の不慮の事故」によると、65歳以上の不慮の事故による死因の1位は、不慮の窒息である。

- (1) 次の図は、クレジットカードの三者間契約についてである。(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑧の中から一つ選べ。解答番号は24。

クレジットカードのしくみ

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

	(ア)	(イ)	(ウ)
①	代金先払い	身分証明書	立て替え払い
②	代金先払い	クレジットカード	立て替え払い
③	代金先払い	身分証明書	代金貸付
④	代金先払い	クレジットカード	代金貸付
⑤	代金後払い	身分証明書	立て替え払い
⑥	代金後払い	クレジットカード	立て替え払い
⑦	代金後払い	身分証明書	代金貸付
⑧	代金後払い	クレジットカード	代金貸付

(2) 次の文は、消費者問題についての説明である。**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は25。

- ① 通信販売はクーリング・オフ制度は適用されない。
- ② 消費者契約法では、訪問販売で退去を断り居座った際の契約は取り消すことができる」と定められている。
- ③ 消費者ホットラインの電話番号は188である。
- ④ 未成年者であっても自分が成人であると偽って行った契約は、無効とならない。
- ⑤ 電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律（電子契約法）では、パソコン等の画面上に申込み手続きを設定するような契約のうち、操作ミスによる契約は無効になると定められている。

- (3) 次の表は、令和4年度の品目別の食料自給率（概算）である。（ア）～（ウ）に当てはまる数字の組合せとして最も適切なものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は26。

品目別の食料自給率
（令和4年度、重量ベース）

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

（農林水産省令和4年度「食料需給表」より）

	（ア）	（イ）	（ウ）
①	99	6	53
②	99	10	33
③	90	16	40
④	89	10	33
⑤	89	6	40

(4) 次の文は、エネルギー消費について書かれたものである。**適切でないもの**を、下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は27。

- ① 2000年代に入って、日本のエネルギー消費量は減少している。
- ② 地熱を使って発電することを、バイオマス発電という。
- ③ 1992年の地球サミットをきっかけに、1997年に気候変動枠組条約第3回締約国会議で京都議定書が採択された。
- ④ 太陽光、風力、水力によるエネルギーは、再生可能エネルギーという。
- ⑤ 国連は、「パリ協定」で、2030年度までに温室効果ガスの排出を2013年度から26%削減することを目標とした。

- (1) 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省）第 1 章 総説 2 技術・家庭科改訂の趣旨及び要点（2）改訂の要点（家庭分野）」に記載された内容の一部をまとめたものとして、**適切でないもの**を下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、「A 家族・家庭生活」においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。
- ② 小・中学校における、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」の 3 つの内容は、空間軸と時間軸の視点から学校段階別に学習対象を整理している。中学校における空間軸の視点は、主に地域や社会、時間軸の視点は、主に生涯を見通した生活としている。
- ③ 内容の「A 家族・家庭生活」の（1）自分の成長と家族・家庭生活については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第 1 学年の最初に履修させることとしている。
- ④ 食育を一層推進するために、「B 衣食住の生活」の食生活に関する内容を小学校と同様の食事の役割、栄養と献立、調理で構成するとともに、調理の学習においては、小学校での「ゆでる、いためる」に加え、「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしている。
- ⑤ 持続可能な社会の構築に対応して、自立した消費者を育成するために、「C 消費生活・環境」においては、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容を新設するとともに、他の内容と関連を図り、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の改善を図っている。

- (2) 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 第 2 章 技術・家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭分野の目標及び内容 B 衣食住の生活」の「衣生活 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作」に記載された内容として、最も適切なものを下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 29。

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

- ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。
- イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

- ① 生活を豊かにするための布を用いた製作とは、自分や周りにいる人々の衣生活を改善させたり、さらに資源や環境に配慮して衣服の再利用をしたりするなど、自分や家族、地域の人々の衣生活を豊かにする物を製作することである。
- ② 製作する物に適した材料や縫い方については、布等の材料の特徴を理解し、製作する物に適した材料を選び、基本的な縫い方や製作方法等が定着できるようにする。
- ③ 用具の安全な取扱いについては、製作に使用するミシンについては、小学校での学習を踏まえて、使用前の点検、使用後の手入れとしまい方、点検方法や簡単な修理方法について理解し、適切にできるようにする。
- ④ 布を用いた物の製作計画や製作については、生徒の身近な生活の中から、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにすることや、資源や環境に配慮することに関する課題を設定するようにする。
- ⑤ 指導に当たっては、解決方法を考え、計画を立てたり、製作について評価・改善したりする際、個々の技術の差が可視化されるため、他者との意見交換は行わないようにする。

- (3) 「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省）第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 3 実習の指導」に記載された内容の一部をまとめたものとして、最も適切なものを下記の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 30。

3 実習の指導

3 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

その際、技術分野においては、正しい機器の操作や作業環境の整備等について指導するとともに、適切な服装や防護眼鏡・防塵^{じん}マスクの着用、作業後の手洗いの実施等による安全の確保に努めることとする。

家庭分野においては、幼児や高齢者と関わるなど校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意するものとする。また、調理実習については、食物アレルギーにも配慮するものとする。

- ① 実習室等の施設の管理では、実習室の採光、通風、換気等に留意するとともに、施設点検業者の作業効率を考慮して設備の整備をしたり、加工機器などの周囲には安全域を設けたりして事故防止に努める。
- ② 材料や用具の管理は、生徒の技術習得の補完や学習効果への影響は低いが、作業の能率、衛生管理、事故防止に関係しているので、実習等で使用する材料の保管、用具の手入れなど適切に行うようにする。
- ③ 各学校の実態に即して実習室の使用規定や機器類の使用等に関する安全規則を定め、これらを指導計画の中に位置付けて指導の徹底を図るようにする。その際、事故が起きる状態とその理由などを予想させたり、その防止対策を考えさせたりするなど具体的に指導するようにする。また、事故・災害が発生した場合の応急処置と連絡の徹底等、緊急時の対応についても指導する。
- ④ 食物アレルギーについては、生徒の食物アレルギーに関する情報の把握に心掛け、発症の原因となりやすい食物の管理を行った上で実習を行い、発症した場合には、保護者や関係機関等との情報共有を行う。具体的には、食材にアレルギーの原因となる物質を含む場合は、喫食時のみ配慮し、できる限り他の生徒と実習ができるようにする。
- ⑤ 校外での実習の際、学習の対象が幼児や高齢者など人である場合には、相手に対する配慮や安全の確保などに十分気を配る必要があるので、実習中は保育士や介護士など資格を持つ職員に実習指導をしてもらうようにする。